

WONDER FULL LIFE EXHIBITION

IMPROVISING EARTH WORK —小さな旅の巡り—

2019.2.15 fri ~ 3.18 mon



イデーショップ 六本木店では、2月15日(金)~3月18日(月)の期間、オオワキチカコが主宰する創作プロジェクト WONDER FULL LIFEの企画展「IMPROVISING EARTH WORK —小さな旅の巡り—」を開催いたします。プロジェクト始動から3年。WONDER FULL LIFEは、さまざまなつくり手との出会いを繰り返しながら、創作の力を紡ぎ出してきました。本展では、奄美大島の泥染、真鍮、陶器、土器のつくり手たちとの出会い、その作品と対峙したときに生まれた特別な感覚を、手に宿らせ、欠片を繋ぎ合わせることで、オブジェやウォールハンギングを作り上げました。さらに、今回は音楽、写真、言葉を創り出すクリエイター達が加わり、IMPROVISATION(即興)による創作によって多角的な表現を試みます。現代に生きるつくり手達が共鳴し、響きあうことで生まれる“特別な感覚”、そこから生み出されたものは、時や境界を超える新たな価値を生み出し、まるである一瞬が永遠につながっていくようにさえ感じられます。WONDER FULL LIFEの小さな旅の巡りをぜひご覧ください。

Special Live ... 2月15日(金) 19:30~

物語の始まり、WONDER FULL LIFEの世界に音楽家OLAibiが旋律を奏でます。

Reception Party ...

2月15日(金) 18:30~20:30



WONDER FULL LIFE

IMPROVISING EARTH WORK —小さな旅の巡り—

WONDER FULL LIFEに関わる作家は、それぞれが住む土地の魅力や季節の移り変わりを肌で感じながら、素直な姿勢で人と向かい合い、創作に専念する人々です。

その姿は、単に技に没頭するのではなく、素材と向き合い、暮らしのなかで使われる様を思い描きながら生まれる民藝や伝統工芸の静かで悠然とした態度にも似ています。

心に響くモノは、必ずその背景につくり手の純粋な思いがあり、それがまた別の人へと伝わることでさらなる輝きを放ちます。

古代より綴られる色を纏った泥染、鍛え形作られ優しく光る真鍮、豊かな土が呼吸する陶器や土器。自然と呼応する現代のつくり手たちとの出会い、その作品と対峙したときに生まれた特別な感覚を、大脇千加子は自らの手に宿らせ、繋ぎ合わせていく。

それぞれの思いを受け、型にとらわれず思うままに紡いでいくことで、光の音を奏ではじめる。異なるものづくりが一つの“巣”に宿り、共鳴する様子は、ある一瞬がたゆたい、流転していく時の流れを感じさせます。

ここにあるのは、つくり手たちとの小さな循環から生まれた、永遠へと続く「祈りのカタチ」なのです。

繋ぎ手＝大脇千加子 *Chikako Oowaki*

染＝金井志人 *Yukibito Kanai* / 金井工芸(奄美大島)

真鍮＝菊地流架 *Luka Kikuchi* / Lue(岡山)

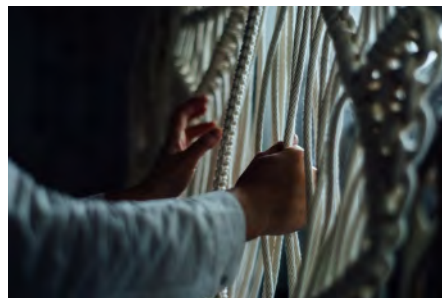
陶器＝城戸雄介 *Yusuke Kido* / ONE KILN(鹿児島)

土器＝横田安 *Yasu Yokota* / 横田窯(茨城)

音楽＝OLAibi

写真＝中川正子 *Masako Nakagawa*

言葉＝猪飼尚司 *Hisashi Ikai*



繋ぎ手＝大脇千加子 / WONDER FULL LIFE ・主宰

www.wonderfullife.link

柔らかい日の光が差し込む都内のアトリエで、大脇千加子は、つくり手たちと共有した時間や特別な感覚を手に宿らせながら、慎重に形を探り、ひと編みずつ丁寧に編み繋いでいきます。奄美から届く大地の色彩を纏うように染められた色の声を聴き、つくり手達の手の温度が残る欠片をつなぎ合わせ、生まれたカタチを繰り返し交換する。そのようなプロセスを通し、本展では、あらゆるものをおおらかに包み込むような“巣”をイメージしたオブジェや、時空を超えた壁画のようなウォールハンギングを制作。手にした人の日常の中で、気持ちを穏やかにし、そっと人に寄り添うお守りのような、「祈りのカタチ」を表現しました。

大脇千加子... 2005年、自身のブランドKiticaを立ち上げ、出産を機にキッズブランドcokiticaもスタート。ブランドの活動休止後の2016年、新たな創作活動としてWONDER FULL LIFEを始動。染色、陶芸、真鍮、漆、織物、など様々な分野のつくり手たちと協働し、個展・グループ展での作品発表と企画制作に取り組む。

染＝金井志人 / 金井工芸（奄美大島）

www.kanaikougei.com

1300年の歴史を持つ本場奄美大島紬の泥染を担う金井工芸。古来より奄美に伝わる伝統技法泥染をはじめ天然染色を行い、豊かな自然と染めを通じて、色と先人たちの知恵を共有しています。染色家・金井志人は、大脇が編み上げた形からインスピレーションにし、奄美に自生する車輪梅（方言：テーチ木）、福木など、奄美の大地から生まれた泥と植物を原料に、各形状に合わせて、何度も色を重ねて、優しくもあり、深く力強い独特の色を作り出しています。

真鍮＝菊地流架 / Lue（岡山）

www.lue-brass.com

岡山県瀬戸内市を拠点に、真鍮を素材に用いてカトラリーなど日用品からアクセサリーの制作を行う彫金作家・菊地流架。その丁寧なものづくりにより生まれたLueの真鍮は、手に馴染み、経年変化により美しく色を変え、その人の日常をあたたかいものにしてくれる。今回は制作過程で残る真鍮の欠片の他、菊地流架が描いた自然と調和する「祈りのカタチ」の象徴的なパーツを、一つひとつ叩いて丁寧に形を成形し、模様をつけていきます。

陶器＝城戸雄介 / ONE KILN（鹿児島）

<http://onekiln.jp>

窯を通して生まれる様々なつながりをコンセプトに、ONE KILN（ひとつの窯）という名で活動する陶芸家・城戸雄介。プロダクトと工芸、両方向からのアプローチを融合、主に型を用いた成形による端正なフォルムと桜島の火山灰などを独自に調合した釉薬により、独特の表情と質感を創り出している。3年前、カップの制作過程で生まれるリング状の欠片を、大脇に託したことから、WONDER FULL LIFEの創作活動がスタート。今回は、様々な土地の土を混ぜ合わせてできているカルチベイトシリーズの欠片を、大脇が大胆に繋ぎ合わせていきます。

土器＝横田安 / 横田窯（茨城）

茨城県真壁町でつくられている磨き土器。真壁ではかつて磨き土器づくりがさかんであったが、現在では横田窯ともう1窯のみとなった。横田窯の横田安は磨き土器をつくり続けて50年以上。土の採取から成形、磨き、焼成までの長い工程を経てできる土器には、手仕事の原点を感じさせる力強さと素朴さがあります。横田安が成形した土に大脇が模様を刻み、協働で作品を制作しています。

Event Outline

WONDER FULL LIFE

IMPROVISING EARTH WORK —小さな旅の巡り—

—
会期=2019年2月15日(金)~3月18日(月)

会場=イデーショップ 六本木店

東京都港区赤坂9-7-4 D-0316 東京ミッドタウン Galleria 3F

tel.03-5413-3455

open.11:00-21:00

—

レセプション=2月15日(金) 18:30-20:30

作家在廊日=2月15日(金)、16日(土)

販売店舗=イデーショップ 六本木店

イデーショップ オンライン www.idee-online.com



Special Program

Special Live

—
日時=2019年2月15日(金) 19:30~

会場=イデーショップ 六本木店(入場無料)

—

物語が始まる2人、WONDER FULL LIFEの世界に音楽家OLAibiが旋律を奏でます。つくり手たちの創作に共鳴し、共に過ごした時間や場所から共有した感覚を音で表現。WONDER FULL LIFEとOLAibiから生まれてくる、記憶に届ける作品第一弾をお見届けください。

OLAibi <http://olaibi.com>



PRESS CONTACT

デイリープレス 川村美帆

東京都目黒区青葉台3-5-33 川辺ハイッ IF tel.03-6416-3201 fax.03-6416-3202 mihokawamura@dailypress.org